

プロレタリア通信

68号

2017年
1月10日

発行人 共産主義者同盟プロレタリア通信編集委員会
 発行所 豊島文化社 〒171-0031
 東京都豊島区目白2-18-15 目白コンコルド101
 TEL&FAX 03-6328-9457
 郵便振替口座 00110-00773588
 年間購読 送料費込 1000円 一部 200円

辺野古新基地建設反対 保守主義・排外主義に抗して!

アメリカのTPP脱退？ トランプ騒動の裏で進行する大きな危機 日米同時に進行する新自由主義とファシズムを許さない

大杉 仁一郎

1. アメリカのTPP脱退で
 危機は去らない！
 アメリカの大統領選挙でトランプが勝利した。トランプは2017年1月の大統領就任と同時にTPP（環太平洋経済連携協定）からの脱退を発表する予定との報道がなされている。TPPが発効する要件は参加国のGDPの8割を超えるアメリカと日本が批准することであるため、一般的にはTPPは解消に向かいつつあると予想されている。

TPPはアメリカを中心とした12カ国が関税を撤廃し諸制度ルールを統一し大きな経済圏をつくるものだ。TPPではISD（投資家国家間紛争）条項が導入されようとしている。これはある外国企業が法律や社会的制度が企業活動の障害となるルールだと思えば、外国企業が日本政府を訴え賠償請求とそのルールを廃止させることができる条項だ。ドイツ政府が原発廃止を決めた事に対してスウェーデン企業は投資利益が侵害されたとして訴えた。日本では原発廃止を求める声が過半数を超えるが、TPPはこうした民意より原発推進の企業利益が優先される、命よりお金の儲けが優先される世界をつくるものだ。

ではトランプ政権が成立するとTPPが頓挫し、上記のような危機は立ち去るのであるか？ 私には、危機は立ち去らないと思う。選挙期間中、トランプは特定の国との個別交渉、2国間の貿易協定を締結するよう交渉するとの方針を発表している。これはアメリカにとって有利な条件を獲得することが狙いだ。多様な利害を持つ「国」同士で調整を伴う多国籍交渉より2国間交渉ではアメリカ政府の意見が通りやすい傾向にある。実際、TPP交渉参加に先立つ事前交渉の保険分野では、日本政府が間接的に出資するかんぽ生命の新商品を確認せずに、既に日本国内のがん保険などで実績のある米国籍保険会社のアフラックに配慮するとの合意を押し付けられた。また、TPPに先立ち成立した韓米FTAでISD条項が盛り込まれており、企業からの訴えの恐れがあると萎縮し、韓国では2015年頃までに75の法が制定、改定させられているという。韓国

においては議会で法律をつくるという議会制民主主義は空洞化し、グローバル資本の利益にそった社会に変貌しつつあるのだ。それは人民が社会の主人公であるという人民主権の原理に反するものだ。

トランプ自身が企業経営者であり、今後、より露骨にグローバル資本の利害にそった2国間交渉が始まっていく恐れが大きいのだ。2016年11月18日に安倍首相はまだ政権についてないトランプの邸宅を訪問し会談を行った。安倍政権はアメリカとの連携強化を打ち出しているが、そうした路線は今後、アメリカと日本との2国間交渉を加速させ、TPPと同様にグローバル企業の利益だけが重視される社会、韓国と同様に人民主権の解体をもたらさざらう。

いわば今後、TPPなきTPP体制（人民主権を破壊するグローバル資本の独裁制）が構築されていく危険性が大きいのだ。

2. 好戦的な差別主義者同士の同盟は私たちの暮らしにとって最大の脅威だ
 トランプの勝利はTPPなきTPP体制の危険性と同時に差別主義に基づくファシズム体制の危機をもたらしている。オバマ政権と比べてトランプ政権はより好戦的で差別主義的政権になると思われる。トランプは司法長官に移民受け入れ反対派で超保守派のジェフ・セッションズ上院議員、中央情報局（CIA）長官にイラン核合意反対派でタカ派のマイク・ポンペオ下院議員を指名すると発表した。また、大統領補佐官（国家安全保障問題担当）には選挙戦早期からトランプ氏を支援したマイケル・フリン元陸軍中将が指名された。彼らはいずれも極右と目されている。

セッションズ議員は人種差別者と言われている。セッションズ議員は1986年当時、上院司法委員会委員で連邦判事の承認を拒否された経緯がある。市民権グループに対する差別的な発言が問題となり、また白人至上主義団体のKKK（クー・クラックス・クラン）に賛意を与えたと疑われて承認に待たなかった。KKKは黒人を差別迫害

する人種差別団体だ。まさに人権破壊の思想を持つ人物が司法長官になるとは末期的状況だ。

ポンペオ議員はCIAによる容疑者の拷問を容認しているほか、イスラム教徒への差別発言で批判を受けている。CIA元職員スノーデン氏の暴露で、情報機関による市民の通話記録の大量収集が発覚し、オバマ政権は収集方法を見直した。ポンペオ議員はスノーデン氏を「死刑にすべきだ」と述べ、大量収集の再開を求めている。

プリン元中将は「イスラムは悪性のガンだ」と繰り返し主張。「イスラム教徒に対する恐怖は理にかなうものだ」と述べ、イスラム法(シャリア)が米国中に広がっているなどと、反イスラム姿勢を明らかにしていた。彼はトランプのイスラム教徒への反感や入国拒否などの主張に強い影響を与えたと見られている。

こうした人種差別偏見に満ち、好戦的な人物が揃ったトランプ政権は最悪の好戦的な政権となる恐れがある。日本のマスコミではトランプを危険視する報道がされている。しかし問題なのはアメリカのみでなく、むしろ日本の方が最悪と言わざるを得ない。現在、日米政府は一体となり、沖縄への基地押し付

け、自然破壊と沖縄人民の暮らしを破壊しつつある。これは沖縄への侵略行為だ。こうした侵略に対して沖縄人民の必死の抵抗が続いている。そんな状況の中、高江ヘリパッド基地反対の住民に対して大阪から派遣された機動隊員が「土人」という差別発言をした。さらに鶴保庸介沖縄北方担当大臣は「土人発言」を差別発言と断定できないと発言した。こうした発言に対して沖縄人民をはじめ、批判の声が高まった。しかし安倍内閣は11月21日、「鶴保氏の発言の訂正や謝罪は不要」との答弁書を閣議決定した。要するに、鶴保発言の「土人発言は差別にあたらない」と、安倍政権が認めてしまったのだ。末端の警察官からトップの内閣に至るまで国家権力みずから差別発言する最悪の状況に日本は陥っている。

日本の外交政策はアジアの中で対中国対北朝鮮で緊張緩和するより、緊張関係を煽るような動きが続いている。さらに2015年9月には海外での戦争を可能とする安保関連法案、いわゆる戦争法案を成立させた。戦争法案に基づき、2016年11月にはアフリカ南スーダン展開中の自衛隊PKO派遣部隊に新たに駆けつけ警護任務を付与した。駆けつけ警護任務付与で初め

て海外で自衛隊が戦闘を行う危険性が高まっている。今後、トランプ政権が正式に発足すれば日米同時に差別主義的な政権が揃うこととなる。今後、日米が軍事的政治的な連携を強めたとすれば、軍事的緊張を煽り、海外での武力行使に突き進む可能性が大きくなると懸念される。2016年12月に安倍首相は真珠湾を訪問し、日米の和解を内外に印象づけ、日米の連携強化に動いている。しかし足元の沖縄では現在日米政府が一体となり基地に反対する沖縄人民の意思を踏みにじり、侵略を続けている。いわゆる日米の政府は侵略者であり、真珠湾訪問は侵略を押し隠すものでしかない。戦後、日米政府は朝鮮戦争、ベトナム戦争、アフガン侵略、イラク侵略など度重なる戦争を推進してきた。日本は間接的に戦争に参加してきた歴史を持つ。特にアフガン侵略とイラク侵略では自衛隊が派遣された。トランプ政権誕生は次なる侵略、戦争の危機を孕んでおりそれは日米政府一体となり推進されていく可能性が大きい。一般的には真珠湾訪問は平和のメッセージ、日米和解を世界に発信するものと語られていたが、実際には現在沖縄で進行する基地建設という侵略行為、そして今後予想

される次なる日米同盟による海外侵略の露払いとなるであろう。

3. 日米同時に進行する新自由主義とファシズムを許さない

80年代にアメリカのレーガン政権、イギリスのサッチャー政権が新自由主義の政策を推進し、それ以来日本を含む世界中の多くの国で新自由主義が浸透した。新自由主義とは、自己責任を基本に小さな政府を推進し、均衡財政、福祉・公共サービスなどの縮小、公営事業の民営化、グローバル化を前提とした経済政策、規制緩和による競争促進、労働者保護廃止などの経済政策の体系。競争志向の正統化するための市場原理主義からなる、資本主義経済体制を指す。新自由主義の拡大とともに貧富の差の拡大は大きく進んだ。

トランプは金融の規制緩和を進めると予想されている。金融の規制緩和と経済の金融を進めることこそまさに新自由主義の中心的な政策であった。リーマンショック以降金融危機の再来を防ぐため金融への規制強化がなされた。アメリカで2010年に制定されたドッド・フランクリン法は、金融機関の資産、負債、資本など、あらゆる側面

で網をかけるものだ。行き過ぎた新自由主義に対する反動としてこうした金融規制強化が行われた。トランプはこうした流れを逆に戻したいと思っているようだ。自らが企業経営者であるトランプは新自由主義的な政策を強く推進する可能性が大きい。

トランプが就任後推進すると発表した重要政策の中で、今後、新しい規制を1つ作るのであれば、既存の規制を2つ無くすルールを定めると発表している。大幅な規制緩和で企業が活動しやすくなるというのが新自由主義の特徴であり、トランプの政策は新自由主義を前面に押し立てたものだと言える。さらにトランプはオバマ政権が作った医療保険制度、オバマケアを解体すると主張している。アメリカでは6人に1人が医療保険に未加入で高額な医療費により医療を受ける権利を奪われた状況が続いてきた。オバマケアは低所得者に補助を行うことにより、国民の健康保険加入率を向上させる内容であった。オバマケアは様々な矛盾があったものの、お金がなければ医療が受けられないという社会にメスを入れる第一歩となる動きでもあった。しかしトランプはオバマケアを解体し、流れを逆流させようとしている。アメリカ

医師会や保険業界等の強力な利益団体が反対したことなどの理由が重なり合っており、アメリカでは国民皆保険制度はできなかつた。医療すら商品としてお金儲けの手段とする保守的な考えが支配的だ。トランプ政権がもし発足すればそうした保守的な考えがさらに強まっていくだろう。

一方で日本では安倍首相が日本の一番企業が活動しやすい「国」にするとして規制緩和をしつつ新自由主義的な政策を推進している。その象徴は2016年4月より法人税率が23・8%から23・3%に引き下げられた事だ。さらに安倍首相は国家戦略特区を推進している。国家戦略特区では解雇しやすい特区をもうけようという構想も考えられている。これには解雇規制が強すぎるので企業活動を阻害するという考え方が背景にある。2014年に新規開業直後の企業及びグローバル企業等が、我が国の雇用ルールを的確に理解し、予見可能性を高めるとともに、労働関係の紛争を生じることなく事業展開することが容易となるよう、「雇用指針」が定められている。福岡市が「国家戦略特区」に指定され、厚生労働省の委託事業である「雇用労働相談センター」が開設されている。この「雇用労働相談

センター」が開設されている。この「雇用労働相談

センター」がグローバル企業等や労働者からの要請に応じた雇用管理や労働契約事項に関する相談に当たり「雇用指針」を活用することとしている。これは企業側にとつて雇用問題の解決、円滑に事業活動ができるように支援するというスタンスのものだ。「雇用労働相談センター」主催の

セミナーでは、代表弁護士による講演で「日頃から人事考課で2と1をつけよ。いきなり2や1をつけるのはダメ」「退職勧奨や指名解雇という手もある。高度なノウハウ。センターに相談を。辞めていただくうまい方法を相談して見つける」「契約に『解雇したらこれくらいのお金を

払う』と書いておけば、弁護士も『しょうがないね』ということになる」など経営者向けに「解雇指南」「脱法指南」というべきものが散見していた。こうした事例を見ると、安倍政権の政策は規制緩和に名を借りた権利破壊の動きだと言える。こうして見てみると今後は

日米で同時に新自由主義を露骨に推進する政権が並び立つことになりそうだ。先に述べたようにトランプも安倍も差別主義的な部分で共通する。日米同時にファシズムが台頭しているのだ。安倍政権は日米同盟関係強化を叫んでいるが、それは人民に敵対する最悪の政権同士が強く結びつく

ということだ。国家権力がこのように経済的には新自由主義、政治的にファシズムという状況になりつつあるのは一般の人民にとつては生活破壊の動きがさらに加速することを意味する。安倍政権は残業代をゼロにする法案を準備しており、これもまさに生活破壊の法案

だ。ここ数年安倍政権のもとで特定秘密保護法、TPP推進、戦争法など人民にとつては脅威となる動きが重なってきた。人民に敵対する日米連携強化を許してはならない。今こそ、安倍政権を倒し、人民が真に安心して暮らせる社会づくりを目指していこう！

全国労働者・民衆総決起大集会 in 韓国

2016.11.29 佐藤保

韓国で行われる「11・12 全国労働者・民衆総決起大集会」に参加する為、11月11日から13日まで韓国に行つてきました。3年前から始まった日韓民衆連帯を目的とした労組交流団の一員として参加したものである。韓国訪問が決定した9月段階では「労組だけでなく市民団体、民主団体などあらゆる団体が参加できる。これまでにない大きな集会になるだろう」と言われて

聞で報道されるという中で韓国の訪問になりました。宿舎に荷物を置いて、午後から2時間ほどかけて仁川支部側からの状況説明を受けました。

があるものであり、ここをしっかりと理解して日本に持ち帰ってもらいたい。

度も「大統領が女占いに操られていたというが、韓国政治はそんなに前近代的なのか？」と質問を受けたが、このような見方は表面的な現象に惑わされたものであり、朴政権が今日のように急速に腐敗・墮落し世論から見放されているのには韓国社会が置かれている政治的・経済的要因

自由主義経済政策の下、親財閥政策―反労働者・反人民政策を取り韓国社会を「地獄」へと変えてしまった。成果年俸制・成果退出性・労働四法改悪、(要するに労働者の諸権利を剥奪し、リストラを企業の意のまま行えるようにしようとしている)

このような状況の所へチェ・スンシル事件が発覚したのである。①朴大統領は側近のチェ・スンシルの為に財

閥に圧力をかけて70億円もの大金を出させて、2つの財団を作つてやった ②朴大統領の支持のもと、権力をカサに着てチェ・スンシルは国の政策・人事に介入して権力基盤を拡大し多方面に不正を働いた。この責任は朴大統領にある。朴大統領は退陣しろ！」が国民のスローガンとなっているのである。この他にも

① セウル号事件。不正改造された客船の運航を見逃したのは政府との癒着があったためと報じられたにも拘らず責任をもつて処理してこなかった。300名以上の高校生が死亡する大惨事であったがマスコミが報道して7時間もの間、何をしていたのか、今もって説明が出来ないでいる。(最新のマスコミ報道ではその時チェ・スンシルの娘の裏口入学の件をチェ夫婦と話し合っていたのではないかと

と報じられているが朴大統領は沈黙している) ②「サードミサイル」配備。アメリカの圧力に屈して配備を受け入れたが全候補地から総スカンを食つて立ち往生している。 ③ 慰安婦問題での日韓合意。安倍政権と10億円基金で合意してしまつたが問題は金ではなく、日本政府からの誠意ある謝罪と賠償。(村山内閣が基金を作つた時には当時の韓国政府は、日韓不平等条約に縛られて言えなかったが、慰安婦の生活保障は韓国政府がやるという、言外に「誠実な謝罪」を願つていいたように思う。) 日本大使館前の少女像撤去反対世論は若者を中心に形成されている。 ④ 歴史教科書の固定化。親日派として断罪されて批判の強い実父(朴正忌)の歴史像を覆そうとして教科書を固定化しようとしたが、大反対にあつている。

⑤ 若者に対する「ヘル(地獄)朝鮮」政策。失業者の増大。大学4年間に学生が背負う借金は平均して500〜600万円(日本も同じ)、これを返済しようと思ふと良い会社へ就職しようと思ふが就職できるのは67%、残り33%は失業状態に陥つている。これを見ている彼らの弟妹達は当然のことに自分たちの将来に希望を見出せないの

で「ヘル(地獄)朝鮮」と呼ぶのである。これが原因で中学、高校生たちがたくさん受験目前にも拘らず、デモ・集会に参加しているのである。

○ 今後の展開予測。このような朴政権の失政続きを見て支配者集団の中で分裂がはつきりしてきた。これほどの不正、腐敗情報が表に出て

いるのは異常。朴政権を見限つた集団が意図的に出しているのではないか。①セヌリ(与党)の一部は小改造で乗りきろうとしてくるであ

る。不正・腐敗糾弾闘争のニュースが連日、テレビ、新

聞で報道されるという中で韓国の訪問になりました。宿舎に荷物を置いて、午後から2時間ほどかけて仁川支部側からの状況説明を受けました。

ろう。②それがダメなら保守野党と「救国内閣」を組織して来年の大統領選挙まで時間稼ぎをやり態勢を整えて大統領選挙での勝利を狙っていく。

それに対してわが陣営は朴大統領を即時退陣に追い込み、敵に立て直しを許さず、大統領選挙に勝利していかねばならない。勝利した後には

①財閥の統制 ②セヌリ党の責任追及、解体へ持つて行かねばならない。しかしこれは長期の闘いになるであろう。財閥を統制するとはどういう事か？ ① 労働組合の拡大・強化 ② 財閥への増税 ③ 資本投資の制限が考

えられているという。日本では第二次大戦での敗北によって占領軍により財閥は解体され、一定程度の民主化がなされて今日に至っている。韓国社会はその財閥解体→真の民主化を自力で達成していかねばならない。確かに困難で長期の闘いになるであろうが、今のような団結力があれば夢ではないだろう。

○ NHKよ、恥を知れ！！ 翌日の大集会は100万人を超えて主催者予想(50万人)を大きく上回るものとなった。(ソウル市が地下鉄改札口を利用した人数を調べたら126万人だったと発

表)。ところがNHKはどう報じたのか？ 最終電車でやっと宿舎に帰ってきた我々を民主労総仁川支部の委員長が一足早く来て待っていてくれた。闘争本部で大部分を過ぎし身体が疲れているはずだが受け入れ責任者として対応してくれました。委員長長の口から開口一番「日本のNHKは警察発表の26万人とだけ言っていました」と知らされた。我々は皆恥ずかしくて赤面してしまい、すぐには返答が出来なかった。安倍の手下の初井が国会で「政府が右という事を左だとは言えない」という迷言がすぐ頭に浮かんだ。初井イズムがNHK

を支配している事を如実に物語っているのではないか！！他のマスコミはどう報道したのだろうか？ 帰国してすぐ図書館で調べたが、「産経」や「読売」でさえ警察発表26万人が大見出しになっていたが、記事の中では主催者発表100万人と報じていた。主催者発表を無視しているのはNHKだけではないだろうか！？ とんだ世界への恥さらしである。ソウル市庁舎前から青瓦台までの2キロを幅100メートルに渡って立錐の余地なく、びっしり座り込んだ人々を想像して頂きたい。どちらが正しいか判るでしょう。

まじめにいきてきた人が権力にふみにじられるのは許せない

10/10, 11 全国労働安全衛生センター連絡会議26th総会「いわき(福島県)に参加して

被ばく労働ネットワーク 橘 優子

全国各地で労災・公害被害に苦しむ人々をサポートしている仲間達がいわきラトブ(駅前の商業施設やなどが入っているビル)の6Fのいわき産業創造館に集まり、翌日には浜通り(東電・福島第一原発の近辺の海沿い地

域)のフィールドワークもするというイベントに被ばく労働ネットワークとして、いわき現地で活動するいわき自由労組も含む10以上で参加。現地ではいわき市長、いわき市議狩野光昭さん(フクシマ原発労働者相談センター)も迎え、

100名近くで初日は石丸小四郎さん(双葉地方原発反対同盟代表)の記念講演 「未曾有の原発事故から4年7カ月の福島いま」 狩野さん、桂武さん(全国一般いわき自由労組)、なすびさん(被ばく労働ネット)、

川本浩之さん(全国安全衛生センター原子力関連労働者支援局)による「原発被ばく労働対策、何が問われているか」というパネルディス、更には安全法によるストレス・チェック制度導入対策学習会。80名の大交流会合宿を経

て、2日めは「アスペクト疾患患者と家族のとりくみどう支える」というシンポ、「公害は犯罪」という故田尻宗昭さんの遺言を支えに闘う仲間の方々に胸をうたれます。

フィールドワークはバス2台で常盤道をいわきから浪江町まで北上、浪江インターを下りてからは国道6号線を南下、大熊町の東電福島第一原発ゲート前まで行って、更に福二原発の敷地内スクリーニング場へ。下車したのは植葉町天神岬公園のみというかけ足のスケジュールでした。が、黒いフレコンパックに詰められた放射性廃棄物の野積

サンケン電気は整理解雇を撤回しろ!

韓国サンケン労組 当面の行動予定

- 毎日行動 (その日の予定や天候などによって、多少時間が変わることがあります)
 - 平日の朝、本社前で行動抗議、am7:15 ~ 9:30
 - [本社: 埼玉県新座市北野3丁目6-3]
 - その後、志木駅前に移動し、市民宣伝行動9:45 ~ 約1時間位
 - 集合: 午前7時 東武東上線「志木駅」南口階段下
- 毎週水曜日行動 昼休み12時~13時
 - サンケン電気東京事務所(海外営業部)前で抗議行動
 - 池袋駅南口メトロポリタン方面すぐ、池袋メトロポリタンプラザビル前集合
 - [東京都豊島区西池袋1-11-1メトロポリタンプラザビル14F]

韓国・全国金属労働組合 慶尚南道支部 韓国サンケン分会 (大韓民国 慶尚南道 昌原市上南洞28-1 TEL055-267-1255)

日本連絡先: 韓国サンケン労働組合を支援する会 東京都台東区上野1-12-6 3階 中小労組政策ネットワーク気付 TEL03-5816-3960 FAX03-5812-4086

1日も早く裁判を! 支援団体結成1周年集会

2017年1月29日(日) 14:00 ~ 16:00

玉川区民会館(東京都世田谷区)(東急大井町線等々力駅徒歩1分)

主催: 福島原発刑事訴訟支援団

お問い合わせ: 福島原発告訴団 福島県田村市船引町芦沢字小倉140-1 電話: 080-5739-7279

パネル展

2017 知ること未来が見える 戦争の加害

2017年2月21日(火) ~ 28日(火) 10:00 ~ 20:30(但し、28日は10:00 ~ 17:00) 会場:かながわ県民センター 1F展示室(横浜駅西口5分)

「戦争の加害」パネル展

・日本軍「慰安婦」とは ・南京大虐殺とは ・731部隊の細菌戦とは ・毒ガス戦とは ・沖縄戦と棄民化された人々の記憶

主催:記憶の継承を進める神奈川の会

問合せ:090-7405-4276 080-6634-5071 090-1116-6919

後援:神奈川新聞社 東京新聞横浜支局 毎日新聞横浜支局 TVK(テレビ神奈川)

協賛:週間金曜日

A B C企画委員会とは A・Atomic(核) B・Biological(生物) C・Chemical(化学)兵器に反対する委員会 その取組みの一環として防衛省・自衛隊に付属する「衛生学校」の機関雑誌、『衛生学校記事』を公開を求める裁判。この『衛生学校記事』情報公開裁判は、第12回を去る10月11日東京地裁であった。 次回第13回は、2017年2月8日(火)14時東京地裁419号法廷である。

みと背高アワダチ草の茂みと 会の自己紹介の席で、タイト ルの様な発言が次々と出てく ることに目頭が熱くなること も多々ありました。シールズ の若者達もそうですが、自分 はどう生きてきて、何を目標 なのか、それを自問しながら 連帯を拡げてゆく、泣けてし 成果。 まうくらいピュアな構えで斗 いを再構築していくことが今 問われている局面にあると思 う。いわきの駅前でピラ情宣 していた女性会議いわき市部 の仲間達ともピラの交換をし て交流することができたのも

前号(67号)

訂正

本で紹介『ろうそくの 方程式』著者・詩人 青山 晴江

傷痍軍人:とすべき ところを:傷慰軍人:と 一ヶ所誤記

訂正

成島忠夫をいたむ。

文中人名の誤記

:依田 健太郎:とす べきところを:清水 健 太郎:と間違える

訃報

横山むつみさんを思い出して 横山むつみさんの訃報、大 野徹人かんより突然知らされ た。

それは、9月21日朝、電話 口からむつみさんが亡くなっ たよ、知っていますか、と。 体調がすぐれないとは、ウ ス、ウス聞きおよんでいた。 私は、むしろ、横山孝雄さん の体調を心配していたくらい である。

もう10年以上も前のことで あるが、六田孝子さんと何度

か登別本町を訪ねた。その都 度、3泊4日か2泊3日ぐら い横山夫妻宅で世話になっ た。いつも、むつみさんは自 動車を運転、横には孝雄さん を乗せていた。いつの頃で あったか、車2台、4人で登 別温泉でゆつくり湯にひた り、のんびり、温泉街の散策 楽しんだことを思い出す。ま た、孝雄さん、孝子さんと3 人で昭和新山、壮瞥温泉街で 焼肉店「バイロン」を営む友 人山中漢を訪ねた。「バイロ ン」に行く途中、孝雄さんを しきりにゆつくり走れ、ゆつ くり走れと、エゾシカやキタ キツネに気をつけろというこ とらしい。たしかに、登別本 町から壮瞥までキタキツネが 道路をゆつたりと横切るのを 2度ほど遭遇した。 ところで、私が横山(旧 姓)知里むつみさんと知り 合ったのは、大阪は千里に、 民族博物館を訪ねた時が最初 ではなかったかと思う。関東 ウタリ会が大阪民族博物館教 授大塚教授を訪ねるというこ とで、私たち「アイヌ解放研 究会」も同行をお願いした。 この交渉の一切は酒井衛さん であった。 知里むつみさんとはどんな 人であったか。 とにかく、この2ヶ月、知 里むつみさんを「偲んで」な のか、「追悼」としてか、何 かを記しておかねばと、メモ の類を幾つか、書いては止 め、書いては止め、相当量に なった。どれも、ただただ思 い出ばかりである。どうも しつくりこない。 やはり、勝手に知里むつ みさんの人となりを残そう と。「フン、やつぱりシヤモ が……」と草場でおしかりの ことと思うが。 最初に、むつみさん、悔し いよね、残念だね、もつと もつとやりたい事があつたら うに……。「シヤモの出しよ ばり」で思うに。知里むつみ さんは、アイヌ・人間にとこ とんどこだわったということ、 それは1人の人間・アイヌと してと同時に、女性としてで もあつたように思っている。 知里むつみさんは、表情は おだやか、いつもニコヤカで あつた。しかし、その眼はい つも光輝いていた。眼光する どのいというのではなく、ニコ ヤかな表情のわりには眼は実 におだやかというほかわない。 なにかを見ずえるといつ た方が良いか。そこに、シン の強さを感じたのは私だけで はないだろう。このシンの強 さはどこからくるのか。しい たげられ抑圧されてきたその アイヌ民族の歴史のみとして ではなく、むしろアイヌ・人 間としての誇りをその一身に もつっていたのではなかった

か。それはアイヌ・人間として、もとより生み育む性としてのもを含めてである。アイヌ・人間、女性としてでもある。私流には人間の奪還・これこそ共産主義(疎外論風)としてである。共産主義とは人間性の奪還だとすると、まさに、知里むつみさんは、その生き様において示

したと思っている。知里むつみさんは、知里幸恵の短くも素晴らしい文学少女を再び3たび世に復権すること。知里幸恵を通してアイヌの精神性とアイヌの有史来の世界をとりもどすこと。これこそが、知里むつみさんが生涯かけてとり組んだ事業である。アイヌ・人間の精神性

と大古来のアイヌの世界を知り幸恵を通して再確認すること。その再生産拠点こそ「知里幸恵記念館」である。私は、知里幸恵のメイとしてのみ、「知里幸恵記念館」建設に情熱をそそいだとは思わない。もちろん、登別本町は知里家に生れ育った、オバとメイの

関係を抜きに「知里幸恵記念館」建設は思いつかなかったであろうことも確かである。だがしかし、知里むつみをむけさせたものこそ、アイヌ・人間として同性たる女性としてあつたように思えてならない。このような知里むつみの熱意情熱は、これもま

た、私の勝手な想像だが、小野よう子や加藤登紀子の心をもゆりうごかしたであろうと。小野よう子も加藤登紀子も世界平和を、女性を詩っている。知里幸恵も、アイヌは大古来争いなく、平和にすごしてきたことを「ユーカラ」を文字として残した。19才の少女の文章である。金田一京助

がどれほど、この天才少女にほれこんだか。知里むつみさんは、知里幸恵を通して、世界平和を、アイヌを、女性を表現したと。そしてそれは、「知里幸恵記念館」として後世に伝えられる。知里むつみさんの志ざし永遠なり。

沖縄報告

宮本なおみさんの感性おとろえず

宮本なおみ・福島県出身・元目黒区区議会議員・革新無所属

悲しみと怒りの島、沖縄に行った。

3泊4日総勢8人のグループは、月に2〜3回「高江」を訪れている原田隆二さんに案内され、悲しみと怒りに満ちた沖縄に大きな衝撃を受けて戻ってきた。

誰もが行く「平和資料館」や「ひめゆりの塔」は沖縄に到着したその日に駆け足の見学で、初めて行かれたメンバーには申し訳がなかった。「平和の礎」から見る岸壁には寄せては返す美しい波しぶきがいつもと同じ姿を見せて

いた。ひめゆりの塔では「鉄の暴風」90日間の沖縄持久戦で生き残った女子学徒たちが、終結直前の解散命令によつて100人もの命を落としている。戦争司令部は愚かな命令ばかりを放つた。

さて2日目、那覇を7時に発ち、辺野古着9時。留守を預かる瀬長さんほか15名前後の細長い辺野古テントには、座り込み862日とあつた。テントでは様々なグループが入れ替わり立ち代わり訪れ、連帯の挨拶やゲート前でのシュプレヒコール、小さなデ

モなどでそれなりに意気を揚げた。わがグループも一言づつ自己紹介。辺野古の皆さんに喜ばれて感激した。後、辺野古漁港で山本英夫さんから説明を受ける。

その後4時10分、山城博治さんが不当逮捕・勾留を受けている名護署に到着。大木晴子さんに会いともに「山城さん! 全国のみなが応援しているよ」のシュプレヒコール。5時からの名護署前抗議集会には参加できず東村のペンションへ。

三日目は4時起床。早朝食をお願ひしN1裏へお米100キロを届け、海水揚水発電跡の岬へ急行。原田さんの計らいで、美しい月の沈む山と、海から昇る輝くような太陽を同時に見た。68年振りの満月が放つ輝き、目も眩むような朝日。沖縄の怒りか私たちがへの歓迎か「じくん」とき

7時N1裏に戻り住田さんの説明を受ける。国頭村の森の樹木直径46cm以上は切らない約束があつたのに破られ、集落に一番近いN4の2か所はすでに完成、N1の2か

のち急いでN1テントへ。8時に到着し大城さんの説明・司会のもと、島ぐるみや女川・平和フォーラム・横浜国大・名古屋・静岡・そして私たち合わせても約60名であろうか。東村には150名の住民が生活しているが、沖縄を戦場にし基地だけがし続け差別し続けた私たちが守れなくてどうする。もどかしい。

9時を過ぎて「ゴボウ抜き」の機動隊立ちかはだかる。身構えつつも機動隊に次々抜かれてゆく。そして向かい側テントに着くも機動隊に囲まれ、いよいよ轟音とともに砂利トン車が行き来。帰れ、来るなの叫び声も轟音に消される。私もシュプレヒコールのためマイクを握つた。12時20分終了。島野さんの報告では、砂利を山に運び下ろして

は帰る20トンダンプ車は60台。12月20日にはけがされたやんぼるの北部訓練場の返還式が安倍を迎えおこなわれ、それまで突貫工事も続くがそれで終わりではない、戦いは続く確認しあつておにぎりを食べ再度N1裏へ。

N1裏で湯浅さんの説明を受ける。米軍の4分の3は海兵隊(ほとんどは復帰後本土から来た数)、使わない基地は返すという地位協定によつて北部訓練場は返されるが、生活者がいて、海からも使える東村と国頭村を狙つてきた。米軍は基地強化し日本は基地軽減という。やんぼるクイナ・山亀・ノグチゲラ・ハブ・いのしし世界中でも珍しい生き物が生息。コウモリがいなくなつた。

翌4日目。5時起床6時半N1裏へ。この日は圧巻であつた。N1裏の奥。ザックリとえぐられた山を見た。高さ約3m幅4〜5m巨大な開

き約3m幅4〜5m巨大な開

口洞窟にゴツゴツした岩と赤土が露出し、その中に巨大な金網の鳥籠のようなものが幾つもはまっている。金網は分厚く太い鉄で8cm位の網目だ。その中に身長約2mもあるうかと思われる米軍が警備会社員か、一つの籠に一人づつ入っている異様な光景だ。えぐられた山肌がいたましい！自分の背中がえぐられているように痛みを感じるのだ。

例えば1872年、琉球処分分で沖縄を侵略戦争の足場に、最後には本土防衛のため持久戦を強い、天皇が米国に沖縄を捧げ、沖縄の人々は土地を奪った米軍の元で働き飢えをしのいだ。今度はその沖縄の唯一残された海と山を奪うのか！煮えたぎる怒りでN1テントに向かい、総勢20人で水曜行動。人数が多いと「ゴボウ抜き」はしない。

私はそこで初めて鳥袋文子さんとお目にかかれて感動した。「島ぐるみ」などなど人々の発言は、400年にわたって築いてきた沖縄独自の歩みや戦中戦後人々はこの森によって生かされてきた。この森の森のヘリパッドは新基地だ、翁長雄志さんはこれを認めるのか。12月20日が終わりはない。この森を守りたい等々続く。

元裁判官の仲曾根さんのスピーチも胸を刺すものであった。山城さんは起訴され接見禁止がついている、明らかに禁じられた事件であることなど法的な問題点。日本は韓国のように大統領に詰め寄る人々のうねりがなぜ創れないか。翁長知事と県議会との微妙な関係の現状など率直な胸の痛む発言が続いた。この日は発言しないつもりだったが、私も文子お姉さんに逢え

ての感動、仲曾根さんの発言を受けて心が痛みやまともこのことを広げることなどの感想を一言。

95日目の水曜行動が終了すると私たちは帰らなければならぬ。私たち「やまとうんちゅ」こそ、この森を守る責任があるのに、後ろ髪引かれる思いであとにせざるを得なかつた。少なくなればまたダンプカーが通る。高江は違い。しかし心を寄せ続けた。痛ましく米軍と安倍に

よって傷つけられ続ける怒りの島をあとにすることになった。

テントで出会った品川の片岡さんを残し、働き回った原田さん、ともに運転案内を無償で引き受けてくれた藤村さんと帰途につく。

2016年11月末日
目黒区 宮本 なおみ

高江オスプレイ・パッド、辺野古新基地の建設を許さない！ 東京集会 最高裁は沖縄の民意に応える判決を

12・10集会アピール(案)

沖縄県の北部に位置するやんばるの森は、貴重な動植物、昆虫が生き、生物多様性に富む、自然豊かな森です。危険極まりない米軍機オスプレイの離発着施設をつくるため、日本政府はこの森を切り裂き、違法・不当な策を弄して建設を強行しています。これに抗議する住民・市民を排除するため、全国から500人余りの機動隊員を投入し、

自衛隊のヘリコプターで建設重機を運び入れるなど、法的根拠もないことを強行しています。緊急事態条項をつくり、国家の権限を強める憲法改正をめざす安倍政権の横暴さが、ここ沖縄・高江に象徴的に表れていきます。高江で起きている現実、安倍政権の暴走が示す、この国の未来の姿ではないでしょうか。

辺野古新基地建設については、代執行裁判で国と県は

「和解」に合意しました。しかし政府は、和解条項にあった「協議」を尽すことなく、再び裁判となりました。そして9月16日、福岡高裁那覇支部が下した判決は、政府の主張を全面的に取り入れた、まったく不当なものでした。

7月の参議院選挙をはじめ、知事選挙や衆議院選挙など、すべての選挙で「辺野古新基地建設反対」の候補が圧倒的な得票で勝利するなど、くりかえし県民の民意は示さ

れています。にもかかわらず判決は、「反対する民意に沿わないとしても、基地負担軽減を求める民意に反するとは言えない」と、多数の沖縄県民の意思をねじ曲げ、「辺野古が唯一であり、移設がなければ普天間基地が固定される」と、こともあろうか裁判官自らが、政府の主張を代弁したのである。さらに、「外交・防衛上の必要性は、国の判断を尊重すべき」とも述べています。これは、1999年の改正地方自治法が、対

等・協力の関係と定めた政府と地方自治体の関係を「上下関係」だとするものです。民主主義を踏みにじり、三権分立をも無視する高裁判決は断じて許されません。

このような、政府そして司法までもが沖縄をないがしろにし、差別しているこの国のありようが、「土人、シナ人」と沖縄県民を罵倒した大阪府警機動隊のは恥すべき言動が出る背景となつてい

るのではないのでしょうか。私たちは、いのちとくらし、平和と人権を軽んじる安倍政権を許しません。

求める全国統一署名」などのとりくみなどを通して、世論を大きく動かしていきたい。

●民主主義を取り戻し、地方自治を確立するため、ともに声をあげていきましょう。

●沖縄県民の民意と尊厳を踏みにじり、いのちとくらしをこれまで以上に危機にさらそうとする安倍政権を退陣させましょう。

●高江と辺野古の新基地建設に反対する沖縄県民と「本土」の市民は、固く手を結びあいましょう。

2016年12月10日
高江オスプレイ・パッド、辺野古新基地の建設を許さない！東京集会 参加者一同

ブント・その経験の「断面Ⅶ」

羽山 太郎

A 総括の立場

私にとって「総括」とは、自己検証の意味をもつ、このことに気づかされたのは、『プロレタリア通信』66号(4月15日)発行直後、経済産業省前テントで「アレは遺言か」と。また、その後幾人かから電話で「自己批判文章だな……。」と。さらに「……だから言っただろう……」

など、など。こうして『プロレタリア通信』66号は2度ほど増刷することとなった。

この「総括」は、「ブント」その経験の「断面Ⅶ」として、時間・場所を知りうるかぎりで公表した。何時、何処で誰れが、何をしたか。これは、私の立場である。私は私の立場の再確認を含めて、経過を「総括」としている。

私は、この60年に近い年月、常に何かを人々に呼びかけてきた。呼びかける主体とは何か。呼びかける主体とは「なにものなのか」自問自答すること、これこそが私にとっての「総括」なのである。ここに自己検証だとする

意味がある。

さて、私は『日本農業の復権』(2013年・豊島文化社刊)の、あとがきえにかえて「私の思想の変せんについて」なる一文をのせた。私は、1980年9月アイヌと出会うまで大きくその思想(行動様式)を変えた。つい最近も『日本農業の復権』を読んだ旧友から「オマエ、前(1960年代)に言っていたこととずいぶん違うじゃないか」とナジラれた。

この30数年間多少の「宇宙曲折」はあつたにせよ基本的には以下に示す団体に所属(略)したり、または支援者の位置に止まり得てきた。この数年私のほかに、「左翼」とは「左翼の影響力とは」「左翼の刷新」「左翼の再生」などなど、多くの著名人や指導的立場の人々によって主張されてきた。とりわけ1989年ソビエト連邦の崩壊後心ある人々は主体の再構築にむけて苦闘している。

B 旭凡太郎こと藤本昌昭
なぜ、旭凡太郎こと藤本昌

昭と名指を始めたか。これまでも、何度か書き記した。第一に2010年9月頃「○○○を認めよう」に対して、第二に、あらためて『プロレタリア通信』バックナンバーの中で「佐藤秋雄」は名指しされている。特に『プロレタリア通信』29号(1995年6月1日)においては、他同志と共に実名で名指しされ、しかも、「12・18ブント総括」旭凡太郎流総括に同意したかのごとく位置づけられている。

この2点において、私も旭凡太郎こと、藤本昌昭君を名指しすることとしたのである。藤本君を名指しする時期が今日となつたのは、「共産主義者同盟神奈川県委員会左派」との合流・合併・統合が確実に破産したこと、次いで、我々は、同盟第3回総会(2016年1月)を実施したこと。これらを踏まえて、路線的対立と理論(哲学)とは何かを明瞭にすることとした。

つまり、検証のうえに、決意も覚悟も、したがって、

私、個人の責任において諦念の上に記録にとどめることとしたのである。

『プロレタリア通信』29号の紙面構成は、一面主張を羽山太郎。その主張の骨子は、社会党党首村山富市が内閣を組織した。そして、就任早々、自衛隊合憲とし君が代・日の丸を認めた。

この1995年は、我々の国際先住民年活動、PKO法粉砕斗争、湾岸戦争反対運動を展開してきたことに踏まえ、阪神淡路大震災、WTO反対、農民連合結成、「フォーラム90年」など、とりわけ、9月には沖縄で北軍兵による少女暴行事件が発生した。と

かく忙しい毎日であつた。しかし、そうした中で一面の主張欄で私は、「新左翼・ブントの再建を！ 社会党には引導を！」を見出しとして、1. 労働者・市民・農民の主体制、2. 新左翼の大連合を、3. 新たなうねり、とする政治主張である。

この一面の政治主張に真向から反対する論旨こそ藤本昌昭の評論である。

高見沢洋一(寄稿)は、「農協の歴史と今日の問題」として、農協の全国連合会と中央会に至る現状分析を通じて、農業・農民問題を解明しようとした力作である。

高見沢洋一はケンキョにも

冒頭

「環境／人権／平和ネットワークのメンバーの1人として昨年8月7日の『百姓と手を結び、地域と世界を変えろ』フォーラムを前後して、日本の農業問題をずっと勉強してきますが、以下は農業問題の初心者として最近私が学習した何冊かの本のノートのようなものにすぎません。……」と、

次いで、同じ号同じ『プロ通』29号とは思えないような異質な藤本君の文章「ブント分裂、12・18についての討論」と題する評論文である。

冒頭リード部分を全面的に再録する。高見沢洋一と同志や読者に対する目線の違いに気づくであろう。

「別掲高見沢氏の赤報派内論争にかんする寄稿文(先日発行された赤報派共産主義21号にたいするものとしての)を契機に、これへの意見交換ならびに討論を、相模、佐藤(秋)、佐藤(保)、高見沢、旭でおこなつた。」と。(別項で批判)

とにかく、この旭凡太郎の文章は読みづらい。起承転結がまるでなっていないこともさることながら、文章自体も日本語になっていない。たとえば、カギカッコの始めの「はあるのだが、何が、何

旭までが「なのかわからない。始はあつても終りの」がない。普通は「」でカギカッコと言う。だから、文字づらひをひろつておくと、

関西派は、「6回大会で座折」「7・6で座折」と。私流には、「座折」「敗北」の関西らしい。つまり、自分は何のため、何をやりたいのかしたがって、誰れと連帯・団結するのか。がない。君自身、旭君自身が一貫して問われているのだ。君、藤本君は何を、何処で、どうしていたのか。していないかつたのか。

とまれ、『プロ通』29号、旭論文にそつて、(6回大会、マル戦派との党内闘争について)

「街頭闘争自体は7回大会分裂以降むしろふえた」と。それよりも街頭斗争ふいてどうしたのと問いたい。補章で述べる大谷美芳君も7回大会後街頭斗争ふいた！ と自慢らしいが。しかし「マル戦派がなぜ7回大会2日目にこなかつたかはわからない。」と。

1968年3月、共産主義者同盟第7回大会、第1日目、書記長・水沢史郎の報告中壇上にかけて上つて水沢史郎に暴行を加えたのは誰れか。大会第1日目、水沢史郎に暴行を加えたのは誰れか。この事実を無視して「2日目にマル戦がこなかつたのは、マル

戦に聞いてみないとわからな
い」(『プロレタリア通信』29
号)とは。開いた口が閉らな
いとはこのこと。旭凡太郎の
健忘症にはアキれる。否、意
識的に無責任をきめこんでい
るのか。旭こと藤本昌昭君の
無責任、ここに極めり!と
言うところだ。

全く同じ年12月に8回大会
はなぜ開催されたのか。

こうした自問は一切ない。
反省は一切ない。

反省がないのだから、進歩
などあろうはずもない。

(イ) 7回大会、1968
年とは、どんな年だったの
か。

①2月社会党本部会館・社
会文化会館会議室から望月彰
を拉致・監禁事件

岩田弘自宅破壊、岩田弘へ
危害を加える

②3月ブント7回大会、大
会2日目、書記長水沢史郎を
始め旧マルクス主義戦線派欠
席・分裂

③4・28斗争不発……全学
連分裂の年となる。(3派統
合・連合の全学連大会の不
発・3つの全学連並立)

④8・3国際反戦集会・中
央大学学生会館他を会場とし
て3日間

⑤10・21霞ヶ関占拠から防
衛庁軍事外交路線粉砕斗争へ
⑥12月ブント第8回大会

(ロ) 7回大会直前共産主
義者同盟・ブント内に暴力を
持ち込んだのは誰か。

さて、私が何に故に、東京
地区反戦世話人(社会文化会
館・高見圭司主宰)に出席す
ることになったか。それは、太
田地区反戦青年委員会は、従
来の太田行動委員会(太田区
役所、太田区清掃、太田区
水道)の人々、片山さとし
先生の勉強会に参加してい
る人々、蒲田郵便局で働く
人々、さらに前中製作所で労
働争議の人々や東邦医科大学
の人々(自治会とは別活動か
らインタンや地域で活動
を始めた人々)、糶谷地区の
金属加工会社の労働者たち、
とくに、この糶谷地区街工場
労働者たちは、中央労働学院
出身の人々で、いわゆる赤旗
銀座の中心的な労働者たちで
ある。

私は、加藤(ひろみ、ま
さみ)両氏(区職労)や青
木(清掃)さん。そして、野
島三郎(中核派専従)、とき
には港区の中核派専従の吉
岡(慶応大卒)さんなどとも
じつて太田地区反戦会議を主
宰していた。

しかし、この太田地区反戦
は、1968年の10月8日の
羽田斗争の総括をめぐって対
立が激化した。

10月7日夜、つまり、

10・8未明法政大学内で大規
模な中核派による学生に対す
る暴行事件が発生した。いわ
ゆる大規模な「内ゲバ」の発
生である。中核派による暴
力・暴行は、中核派学生の羽
田到着を大幅に遅れさせた。
それ故に、中核派は、学生を
反戦青年委員会の隊列になだ
れこませた。こうして、遅れ
に遅れて「戦場」・羽田現地
に到達した中核派学生は、山
崎博明君の犠牲をみるまでに
なったのである。

このような私の見解と野島
三郎の見解は真向から対立し
た。この対立は、佐藤秋雄名
指しで『前進』紙上で批難さ
れた。『前進』バックメン
バー・縮冊版をみよ)

私はこうして、「10・8羽
田斗争」の総括を独自に持つ
ていたことも含めて、自らの
意志で東京反戦世話人会(社
会文化会館・社会党青少年局
長・高見圭司主宰)に出席し
た。

佐々木、さらぎ、杉田、垂
水俊介や吉森氏や大野氏の指
示をうけたわけではない。し
かし、いろいろな関係者、身
近な人への了解(ねまわし)
は当然のごとくである。

私は断じて、望月彰のブ
ント系地区反戦青年委員会の代
表の地位を奪うという「政
治」としての行為ではない。
あくまでも南部地区、太田地

区反戦青年委員会の現状にか
んがみての行動である。この
ことは、望月彰(物故)をは
じめ、望月彰と志ざしを同じ
くし望月彰を友人とし師とあ
おぐ人々に対して、はつきり
と申し述べておく。

望月彰・拉致・監禁・暴行
事件は、私の意に反してい
る。まして、第二次ブント
(1966年9月第6回大会)
の非マルクス主義戦線系の内
部、とくに私の関わる人々の
間で、人間が人間をナグッて
も良しとするような指示を出
したのは1人もいない。

望月彰を拉致・監禁・暴行
した人格とグループと第7回
大会第1日目に暴力的にマル
クス主義戦線系の人々を排除
したグループは同一と考えて
良い。

非理論主義・非科学主義的
傾向の人々である。そして、
7回大会を成功とする人々で
ある。大分裂を正当化する
人々である。

ここに「第7回大会をもつ
て第二次ブントと言う」(旭
凡太郎、大谷美芳、「第7回
大会で関西は主導権をとつ
た」これらは同一の精神構造
にあると見て良いであろう。

繰り返すが、私の素行は素
暴ではある。だからと言っ
て、頭と口先まではかなわな
いから闇撃ちをする。宣戦布
告なしにウシロから不意撃ち

をクラワス。このようなヒ
キョウな人間ではない。
望月彰はブント系地区反戦
を代表する東京地区反戦世話
人である。私は、太田地区反
戦の事情の下での現場に責任
をもつ一かしの世話人であ
る。

私はこれまで誰れかにとつ
て換わろうなどとはただの一
度も考えたことはない。たと
えば『鉄の戦線』―『蜂起』
の時代にあつてさえ。誰れか
に替わる必要などそもそも、
その当初より必要ないのだ。

『鉄の戦線』も『蜂起』もそ
の命名からして、何かに、誰
れかに遠慮してつけられたわ
けではない。さかのぼって、
1967年10月8日斗争後、
共産主義主義者同盟南部地区
委員会の機関誌「赤軍」なる
命名も誰れかの指示によるも
のではない。それ故、ブント
書記長の水沢史郎に「軍事機
能主義」とシカラレタ。松本
礼二には「この本ぐらひは読
め!」とクラウンビッツの
『戦争論』黄ばんで、ポロボ
ロ(敗戦直後の出版物)の単
行本を渡された。こうして、
『戦争論』はもとよりトロツ
キーの軍事論や石原完爾に関
心をもった。

この1967年の10月8日
―1968年1月エンタープ
ライズ寄港阻止法斗争の2ヶ月
間人々との出会いにお

いて、現場が過激化してゆく
ことにおいてまたまた、垂水
俊介がたずねてきては、住所
と名前のメモをおいて、「サ
ルページ」を懇願することし
ばしばである。この2ヶ月
月の刺激こそは、私の人生を
変えた。

実力斗争の飛躍こそこの
「10・8斗争」であつたと私
は把えている。私の労働者魂
しいは、「トビ越え」たので
ある。この「トビ越え」は1
980年9月アイヌと出会う
までつづいたと。

(ハ) P通29号批判 旭凡
太郎の口グセ
1. オレは、一貫して指導
者であつた。

④ 「加盟書を書いたこと
はない」、「会費・同盟費を
払ったことはない」指導者で
あつたからと、1980年代
の弁である。

⑤ 『シニア左翼とは何か』
2016年3月、「田宮を、
森を、組織した」と発言、こ
の出版物は朝日新書として市
販の出版物となつている。

2. 第2次ブントとは、1
968年3月の第7回大会か
らである。と、これも198
0年代の弁

関西ブントが主流派となつ
たから、(最近、大谷美芳の
手による文書では文章として
名言されている)。

②主流派とは、議長佐野茂樹、学対部長〇〇〇〇となつたから?? 旧『黎明』・マルクス主義戦線を暴力的に追放した結果。

3. 「趣意書を認めたらう!」2010年9月、誰一人、只の一人も賛同者はおろか支持者もない。会議の席上でこのこと賛同者も支持者もないことを2010年9月以降旭凡太郎は自ら確認することとなる。

『プロレタリア通信』29号、旭凡太郎論文、冒頭、リードで、なに故にか、佐藤秋雄と佐藤保は実名で名指しされる。

当時私は、旭凡太郎論文に関心はなく無視してきたと言つて良い。しかし、2010年9月「お前も趣意書を認めたらう」には驚愕した。そして、『プロ通』29号の佐藤秋雄と佐藤保の実名文言は、極めて政治的意味をもつ文言、言語であつたと。遅ればせながら気づかされた。

ならば、私も、2010年9月以降旭凡太郎こと藤本昌昭を名指し、政治的に対応させていたこととした。寛大さや寛容は地獄への道です! と改めて旭凡太郎こと藤本昌昭におそわつたというのである。

「捕まったら終わりだ!」「捕

虜になつたら終わりだ!」と逃げまどう主義者は、1960年代後半から1970年代を通じて「獄中者組合」「獄中者訴訟の会」などの団結と活動を知らない人々の口グセだ。1960年代後半から1970年代を通じて、代用監獄(所轄警察署留置場)と東京拘置所(巣鴨プリズン)と全国にある刑務所の被疑者、受刑者の処遇は、著しく改善されたのだ! 人々の在る所何処でも団結・連帯し敵とたたかうことはできるのである。人々を信じるからこそ自らをも信じたたかうことができるのだ!!

この真理を知らない者こそは、インチキゲツチャー面した指導者である。「私は指導者だ」「私は〇〇を組織した」と! こうして、「佐藤秋雄」をも屈服させたとするのが『プロレタリア通信』29号の政治的意味であろう。

「12・18プリント」など、私にとつても、佐藤保にとつてもあまり興味のないことである。「12・18」とは下赤塚交番ぐらひは思い出すかもしれないが。

また、私個人は、当時すでに「12・18プリント」に対して結論を持つていた。即ち、すでに、プリント・南部地区委員会は『ヴィボルク』をもち、『鉄の戦線』を

発行し、事務所を構えていた。そのような意味において「12・18プリント」に何らの興味をも持ち合せていなかった。「シニア左翼とは何か」――反安保法制・反原発運動で出現! 小林哲夫著 朝日新書(2016・3・30発行日)

「旭凡太郎。1942年生まれ73歳。……旭は大学で後輩の田宮高麿、森恒夫を組織に勧誘する」と。

(一) 1995年とは、どんな年であつたか(『プロ通』29号発行年)

1. 阪神淡路大震災
2. WTO-1月発効
3. 前年より農民連合全国各地域・各県で結成合つぐ

4. 農民連合・東京-2月八王子市旧榎木村寺芝会館にて結成大会
5. 前年よりつづく各ブロック、県での農民連合結成大会に、田中正治、坂井與直、川口進ともども手分して参加

6. 7月「泥つき百姓を国会へ!」を合言葉に参議院議員選挙(農民連合・東京は不参加)
7. 9月沖縄・北米軍人による少女暴行事件発生
8. 「フォーラム90年」各イベント開催(私は事務局の一担を荷なう)

P通29号での共産主義者同盟第7回大会での第2日目に旧マルクス主義戦線派系の人々が欠席したことについて、「マル戦に聞いてみないとわからない」と。

ナントゴウマンな、ナント忘れっぽいことか、ナント無知をさらけ出していることか。旭凡太郎こと藤本昌昭とはかように無責任男である。

旭凡太郎は、社会文化会館にての望月彰拉致・監禁暴行事件に参加していた、と最近発言している。社会文化会館の玄関口まで行つていて、と、つまり、レポ役・見張役をやつていたことを自ら発言している。にもかかわらず「オレは一貫して指導者であつた」と。

第7回大会初日、第1日目から書記長たる水沢史郎を壇上から引ずり下し、発言をふうじ込んだのは誰れか。大会第1日目に暴力を指示したのは誰れか。レポをやつてはいるよな人間でないことは確かである。自発的にレポをやつたのか。レポをヤレと指示されたのか。

大谷美芳文章によれば、「マル戦に論理ではかなわな」と思つていたと書いている。つまり、論理・理論でかなわなから手足を出すと言ふこと。頭や口先きでは足りないから手足を出したと。大

谷美芳はいわずもがなに語つてゐるわけだ。わが、旭凡太郎こと藤本君はどうか。レポをやるぐらいだから同類であろう。

補章A
『プリント・新左翼NET』(仮称)の趣意と論点 2016年3月大谷美芳・元赤軍派

(イ) 年表から重要事項がそれぞれ欠落
この文章は8月1日友人より入手。
8月1日は、塩川喜信(7月30日永眠)の寝顔を一目とご家族の特別なはからいにより、蔵田計成・松田健二と3名で八王子市のご自宅を訪問。その帰りに、旧友にいた

旧友とは、『プロ通』66号を巡つて、または、19967・8年当時の時代考証をめぐつて討論した。その帰りに先きの文章をいただいた。このいただいた大論文こそ表題の文章である。
大谷美芳なる名前を気にか

けながら、帰りの電車の中でつらつらナナム読み。そして、アレレ、どこぞで読んだような……、ハテナ?。が、幾つか眼に飛び込んできた。
1. 年表がずいぶん主観的だな。と。誰れかの口グセに似ているな。と。

2. マルクス主義だ、レーニン主義だと乱暴に「呼称」されているな。と。ずいぶん昔のアジテーションを思い出す。「われわれは……」「我々は……」と連呼(乱呼)するのを。中味、内容ではなく繰り返してである。

3. これも、何処ぞで、何時ぞや聞いたな、「資本主義批判」「資本主義批判」と。内容に、全くナンダカナー! というのが素直な感想だ。

4. 日本共産党との対立、革命的共産主義者同盟・中核派との競争が、吾がプリント、特に第二次プリントを規定したと。もし、「競争・対抗」というのであれば革共同3派が正確ではないかと思うが。あるいは革労協を含めると4派がより正確では。

5. 武装斗争と武装斗争の位置づけ、その敗北過程は元赤軍派としてこれで良ろしいのでしようか。
6. 私がぎいと読んだ感想では反省のない総括には進歩はないな。と。言うことである。

7. 「プロ独」社会主義「一党独裁」と、この政治内容「理論においても、今日の研究水準から退化している。」
8. 農業・農民問題について
まるで無知。「衣食住」について無知と言うことは、社

会とは何か？ 社会の社の字も理解していないことに等しい。これこそが、インチキゲッチャーのインチキの所以である。三里塚農民の「三」の字もなし。

したがって、自由貿易の何んたるかも、WTOも、TPPも一切、その単語としてすらなし。「世界革命」から「一国社会主義へ」が大谷美芳の主張らしいが、これこそナンダカナー！

『革命の革命』守田典彦著や『日本農業の復権』ぐらいは一読して欲しいものだ。

農民が出てこないということは労働者さえでてこようがない。人間の顔がまるでない。

※いづれにしろ、400字詰用紙80枚になるうかとする大評論集・文章である。一つの今日の大谷美芳氏・元赤軍派氏の政治的(評論屋)立場を表明していることは確かである。

(ロ) 大谷美芳流「マルクス・レーニン主義」

いまどき「マルクス・レーニン主義」を！と呪文のごとく唱えれば良いというものではない。これこそが宗教・アヘンだ！それとも今流行の覚せい剤中毒か！中味、内容＝体系を自ら提示せ

よ！一昨日の「マルクス・レーニン主義」はウソで、昨日の「マルクス・レーニン主義」は誤りで、今日の「マルクス・レーニン主義」を。

スターリンは、自らをマルクス・レーニン主義と自称し、ボウ大な著作をものにした。そして、ロシア社会民主党の非合法部門を一貫して亡命もせず担ったのはスターリンである。

あの日和見の典型とも言うべきレーニンは生涯スターリンに頭が上らなかつたのである。つまり、私は、××君のマルクス・レーニン主義、△△君のマルクス・レーニン主義、はたまた、宮本憲治や寛田寛一のマルクス主義などクソクライだ！ということである。呪文かスローガンのごとき、××君△△君の「マルクス・レーニン主義」など、唾棄すべきもの以上ではない。大谷美芳言うところの「マルクス・レーニン主義」も同じだ。

大谷美芳批判 憧れと「古証文」

10年前の古証文ではなく、150年も昔の証文を持ち出してきている。岩田弘のコミュニケーション論の1ページぐらいいは読んでから書いた方が恥をかかなくてすむ

というものだ。150年前や100前をアナロジーしてどうする。

自分の眼で、自分の手と足で頭で感じ考える！他人(マルクス・レーニン)の真似をしてどうするのだ。

この程度の「革命」よりは青山晴江の詩や武藤類子のメッセージがよほど革命性をもつて人々に訴える。なぜ、このようにバトウする文章を書き書いたか。

何一つ反省がなく、むしろ、自己の失敗や敗北を自慢していることに対する憤りである。

それは、7回大会をどう総括するか、その1点につきるのだ。

分裂を是とするなら党など語る資格そのものがないと知るべきだ。

大谷美芳・元赤軍派は分裂を肯定・分裂を現にいまつづけているのに全く気づかないおめでたい老人である。7回大会分裂を肯定し、「7・6分裂」を肯定し、現に、いま、この文章において私と非妥協的となった。

分裂に分裂を肯定し、それで「党」。

それだけで「マルクス・レーニン主義」全く理解不能・説得力まるでなし。たんなる分裂主義者のたわごとにすぎない。

一向健「赤軍始末記」、旭凡太郎『プロレタリア通信』29号、そして、この「ブント・新左翼NET」は、同じ文言をもつて7回大会分裂を肯定している。

「7回大会2日目出席しなかつたのは、マル戦に聞いてみなければわからない」、旭凡太郎の文章と大谷美芳・元赤軍派の論文内容の水準は全く同じレベルである。

一向健・旭凡太郎・大谷美芳は「7大会」「7・6」の把え方が一緒というだけでなく、一知半解な紙の上での「資本主義批判」を展開している。塩田庄兵衛(「労働組合入門」)ほどの内容展開なしに言語の独り歩きとして使用している。

このように書くともたまたま口先で負けたからと手足が出てくるであろうか。あるいは棒か。石か。

どこまでも恥のうわめりをつづける他はないであろう。ブント7回大会を大分裂「党建設の敗北」と把えられない小ブル主義者。これこそ小ブル急進主義という。

(ハ) 古色蒼然 小ブル急進主義による小ブル急進主義なる自己否定

1976・7年「赫旗」の紙面ににぎわした。この執筆陣はいづれも元赤軍派であつた。

「小ブルジョワ」

なんだかなー！と。私にはうらやましいかぎりだ。

無反省に、かような言辞を……。それですむのか。

小ブル、プチブル、大ブル、なんだかなー！

その反対語は何んですか。先ず言語学的に説明して下さい。言語学から社会科学の言語の説明をせよ。「小ブルとは」「急進主義」とは。

非科学主義 何10回何百回も繰り返す、非科学主義、反理論主義したがって、脳みそ(頭)で負けるから、手足で物を言う。手足で足りずに棒や石ころを持ち出す。

これが。 1967年2月7日、佐藤秋雄を拉致し東大駒場寮社研究室に監禁した。

1968年2月望月彰を社団法人文化会館会議室で東京地区反戦青年委員会の会議の席上から拉致し中央大学学生会館に監禁し暴行を加えたのは誰か。(ついで最近旭凡太郎は、レポ役か、社会文化会館まで行ってたことを告白)

1968年2月岩田弘自宅を破壊し、岩田弘自身に暴行を加えたのは誰か。

1968年3月共産主義者同盟・ブント第7回大会第1

日目水沢史郎・書記長の発言中、壇上にかけて上り水沢史郎に暴行を加えたのは誰か。

1968年10・21斗争で霞ヶ関占方方針を突然六本木は防衛庁の攻撃斗争に方針転換させ「ビンの投テキ」「ビンの投テキ」と無責任にさげん

だのは誰か。1968年10・21防衛庁斗争の頂点は一体屋なのか夜なのか。一体どんな部隊が主力だったのか。

なぜ、佐々木和夫と羽山太郎は求令状・事後逮捕となつたのか。佐々木と羽山は何処で何時頃の斗争で「求令状」請求となつたのか。

「10・21防衛庁斗争」を厳格にその時系列、その部隊と何処で誰れが何を行ったのか総括せよ！アホ！

「ビンビン」とわいた御人は、10・21当日何処で何をやっていったのか。「主導した」「指導した」というのであれば、当うの昔しに時効である。ツマビラかに自慢話して

もして欲しい。なぜ、「7回大会を主導し主流派」であつた大谷美芳君達・たちは、12月共産主義者同盟・ブントの第8回大会を組織しなければならなかつたのか。『赤軍派始末記』は不平不満のみ、ビン投げけるか、占拠するか、デモをするか、占拠するか、程度のこと。哲学・理論のカケラもない。し

かもこのような非科学主義を「小ブル急進主義」「赤軍始末記」で片づける。たしかに、この「小ブル急進主義」と片づけたのを40年前『赫旗』紙上でしばしば目にした。こうして『赫旗』は自己規定を「現代左翼」と称した。

ついでに、この「小ブル急進主義」に對をなす言語として「現代左翼」なる言語・文

言が良く使われていた。この『赫旗』紙上で目にした文

言が、まさか大谷美芳・元赤軍派の文言であつたとは思わ

ない。しかし、あまりにも似てはいないか。物事を二分

法、二項対立的に整理する頭脳明晰なこの文章は、かつ

て『理論戦線』(1968年)誌上でも目にした。「日米開

戦」論的な「帝国主義」論や「10・21の勝利と11・7の敗

北」なる文章である。この文章の構成・方程式・起承転結

とあまりにも酷似しているではないか。

大谷美芳・元赤軍派の文章。実に面白い文章である。ふたたび、3たびこの指と

まれ程度の文章。それ故に、「昨日のマルクス・レーニン主義」「昨日のマルクス・レーニン主義」「今日のマルクス・レーニン主義」と言っているのだ。

どんなトンボもそんなあぶなかしい指に止まらない。

「時系列的に一読」を。編者 共産主義者同盟赤軍派・「世界革命戦争への飛翔」

発行日 1971年3月31日

発行所 (株)三一書房

著者 塩見孝也・「赤軍派始末記」元議長が語る40年

発行日 2003年3月31日

発行所 (株)彩流社

著者 荒 岱介・「破天荒な人々」叛乱時代の証言

発行日 2005年10月15日

発行所 (株)彩流社

著者 荒 岱介・「新左翼とは何だったのか」

発行日 2008年1月30日

発行所 (株)幻冬舎

著者 中島 修・「40年の真実」日石・土田爆弾事件

ア左翼と何か」へ旭凡太郎もシニア左翼の1人として登場

発行日 2016年3月30日

発行所 朝日新書

補章B・大谷美芳・元赤軍派批判

大谷君の「マルクス・レーニン主義」に至る経過

勿論当時は、「赫旗」というセクトがあつた。そのことからすれば、言語・用語規定

(概念規定と言ふほどはない)は、それぞれ(数人の間で)

に統一されてきたであろうことは十分に想像できる。

「小ブル急進主義対現代左翼」で、大谷美芳論文では「小ブル急進主義対マルクス・レーニン主義」と。

しかし、この「現代左翼」なる自己規定は、「新左翼」なる呼称へのアンチでもあつた。「あつた」とは、1984

4~5年に私が確認した人間の言辭である。そして今度は「マルクス・レーニン主義者」と自己規定しようと言ふことか。

大谷美芳・元赤軍派さんは、元『赫旗』に所属していたのではなかつたですか。大谷美芳・元赤軍派さんは、元赤軍派と言ふことは当らに65才は過ぎておられるであろう。あるいは70才もこえているで

あろう。と言ふことは、元は赤軍派でもその後、この40年間、何処で何をしていたのですかね。これまでの論文の目録ぐらゐは銘事して欲しいものである。

ところで、日本独占資本主義でも帝国主義でも結構だが、沖繩のオの字も、アイヌのオの字も無くまして、農業・農民問題はマルクスのヤツツケ仕事であつた『共産党宣言』程度・レベルの無内容である。日本資本主義の原

蓄過程はもとより、現在もなおアイヌモシリ、を略奪しつづけその先住民族としての先住権を認めていない。今なお

「北方諸島」や「北方領土」とぬかす。沖繩は現に今も植民地としてその領海領土、人間をも縛りつづけている。

帝国主義とは疑いもなく植民地・民族問題である。この植民地民族問題に何一つ答えようとなさなければ、政治的に

にも応えていない、この大谷美芳論文とは何か。単なる資本主義の発展論か。資本主義が発達すれば、プロレタリア独裁は一国社会主義は可能だと。

「世界革命論」は小ブル主義、今度は「一国社会主義論」で「マルクス・レーニン主義」だと。しかも、7回大会大分裂は、正しかつた。つまり、今もつて何一つ反省

していない。アイヌも、沖繩も無視、農民は半プロレタリアで農業は

なくでも工業プロレタリアで充分、プロレタリアで独裁は

一国社会主義は可能だと!! まあ、なんと粗っぽい社会主義なこと。コワイ・コワイ、このような「マルクス・レーニン主義者」には近すぎ

たくない。一党独裁社会と国家の区別もなく、まして「衣食住」は考慮の他であると。人間の顔が見えない。プロレタリアつてどんな顔をしているの、農

漁林畜産はもともこの大谷美芳論文からはじかれてお

から顔などあるはずもなからうことも想像できる。

大谷美芳・元赤軍派さんは「コレコノヨウに日本資本主義は発達・発展してきたよ!」と。日本資本主義を美化しているだけである。一昨

年の「マルクス・レーニン主義はウソ」、昨日の「マルクス・レーニン主義は誤り」、そして今日の「マルクス・レーニン主義こそ正しい!」

と。レーニンは、幸徳秋水ほどの『帝国主義論』を展開できなかった。それ故、レーニンは自らの帝国主義を被弾圧に

よつて奴隷の言葉で書き綴るを得なかつた。つまり、レーニンは、ヒルファデング

の『金融論』の焼き直しにすぎなかつた。否、ヒルファデングの『金融論』信用論以下である。

レーニンは恥を知つていた。しかし、この大谷美芳なる人物は恥を恥じること知らぬらしい。レーニンの更なる恥のうわぬりを××君、△△君、そして大谷君は繰り返しているのみである。

「人は変りうる」とは考え方が変るといふこと、大谷君は、「世界革命は誤り」「小ブル急進主義は誤り」と。逸体、この論文の前までは何処で何を主張し、どのような行動を組織していたのかね。つまり、「人は変りうる」とは、「人は主義主張があろうがな

かろうが?」。次から次へと論点をづらしたり、主張を乗り移ることはできるといふこと。このことをカール・マルクスは「人は変りうる」と言つている。ところが、人の性格は変りようがなからう。

「世界」はダメで「一国」ならよし。レーニンの軍事革命はよし、プロレタリアだから、これもナンダカナー!

農民を何万人も赤軍をもつて殺したの誰か。農民から種初みまで奪つたのは誰か。

大谷美芳君、中央集権は良いことだと。中央集権の味、その実体は知っているの

味、その実体は知っているの

味、その実体は知っているの

かね。さて、吾・ブント内中央集権主義について、以下のよう

「中央集権」について「中央集権」とは排他主義をも意味する。イタリアのファシズム、ドイツのナチズム、日本の天皇主義を見よ。

そして、それはレーニンがそうであったように、一党独裁・国家主義をもたらず。ロシアの外延化としてのソビエト同盟。

「排除の論理」とは何か 論争や多数決ではなく闇撃ちと不意撃ちで排除してきた。1967年の2月7日、佐藤秋雄を拉致監禁・暴行に

始めて、1968年の望月彰、岩田弘、そして、1968年3月の第7回大会初日の壇上かけ上り書記長発言をふうじと引きずり倒し。この根

性、は遂に1969年7月6日未明の重大事件を引き起す。いわゆる「7・6事件」だ。

これで、主流派だ、主導権を取った、だと言っているのか。論争する内容も、気力もない。多数派を形成しうる政治力組織力もない。それでいて、主流派や主導権は発揮できるのか、できない。故に、

不意撃ち、闇撃ちとなるのである。少数人数で多数の人数を

ヤツケルゲリラ戦争。古代から用いられる軍法である。ガキのケンカ以下。正面から

背後からオソウこととなる。つまり、軍事力、暴力で勝つたとしても、精神力(論理)では、たたかう前に完全に敗

北している。これこそが赤軍派である。これこそが、1967年2

月7日から1969年7月6日未明までつづく「主流派・主導権」なる内実である。敗北を敗北と認識も自覚もできない。

常に、一生負い目をもつ以外にその反省はないのだ。

◎分裂主義者としての日和見・党建設は可能か

私は、これまで(1970年初頭)一向健の日和見主義体質(1965年6月と1967年2月13日2度の関東からの逃亡・箱根越え)を批判してきた。

この1970年代初頭の論文集は『ブント』・西南社気付1980年9月に出版した。

また、2010年9月以降は、旭凡太郎こと藤本昌昭の個人主義・政治主義批判を展開してきた。

さらに、この『プロレタリア通信』68号において、大谷美芳・元赤軍派さんを批判する。

この三者(一向・旭・大谷)に共通するのは、自己防衛・自己正当化を余す所なく自己開陳している事である。

それは、「あの時デモをやっておけば……」「あの時のデモの方針は……」「あの時ピン投テキの提案……」の類いの話しである。この類いの話し、戦術というより、単なる技術論である。

第二に、これこそ彼ら、3者の政治内容を成す所の共通

項。それが7回大会を大分裂・第二次ブントの互解の始りとは決して把えないということにある。文字の使い方においても共通している。同一

である。それは、「関西派が主導権を取った」旭凡太郎的には「第二次ブントとは7回

大会から」とウソブイではばからない。

つまり、「関西派が主導権や主流派」になれば良し。では一体関西派とは誰れのことか。関西派以外は暴力によっても排除することか。

この一点で何のクモリもなく三者(一向・旭・大谷)は同一である。

で、彼らは、何んのタメライもなく、「党」建設を唱和する。そこでは、一向健によ

る「党」なのか、旭凡太郎による「党」なのか、はたまた、大谷美芳による「党」なのか。大谷は、「ブントNET」らしい。これが大谷美芳の「党」か。「NETブント」らしい。大谷美芳さん、ブントとは何語ですか、ブントとは何を意味するのですか。

とまれ、いづれにしろ、「非マルクス主義戦線派」、いわゆる「非マル戦派」ということでは、私も3者プラスアルファか。私は、そもそも共産主義者であり、共産主義者同盟(ブントM・L派)であ

った。私は、6回大会派でも7回大会派でも8回大会派(1968年12月)・9回大会派(1969年8月)でもない。私は共産主義者として共産主義運動を担ってきた(1964年以降)。そして、それは、一個の盟約として共産主義者同盟を自ら選んで今日

に至っているのである。すべからず、常に、私は、自らの未来を自ら決定してきた以上

のことではない。だが、とは言え、1966年9月段階で南部地区委員会に所属し、「赤軍」を発行し、ポイボルグを通過し、ついには「鉄の戦線」を発行するに及んで、「経済主義」「労働者主義」そして、1969年秋には、「さらぎ派だ」などどレッ

テルやら批難を一人あびてきた。だが、私はヒルムことな

く今日の『プロレタリア通信』となつていたのである。

私は、すでに他人を批判する以上の批判や批難を受けてきたし受けつづけている。「社文(社会文化会館)で望月さんの拉致を指示したのは羽山さんでしょう!」はつい最近のことである。高見圭司などは、いくら違うと言つても今もつて信用しない。それもよし、である。そのような

批難や批判、誤解を気にするより、人々と交わること人々と共に過すこと、人々に寄り添うことの方がよほど重要重大な政治的関心事である。

私は、「ブント」の内ゲバの歴史から自由であり得ない。私は他人に手を上げたこととはないにしても、私をなぐりたい人は山ほどいるであろう事において、自由ではあり得ないのである。

1967年までの共産主義運動とその忘備録的年表

私は、第二次共産主義者同盟結成大会たる、再建第6回大会時にはすでに共産主義者として共産主義運動を展開していた。

1965年6月日韓条約国会批准阻止斗争で逮捕・起訴処分保留での出獄後、東京南部地区委員会に所属して活

動していた。東京南部地区委員会は大田区内を中心とするものである。東京南部地区とは敗戦の京浜工業地帯の一角を占めるものであり、活気に満ちた街々である。鉄道で言うなら京浜東北線、京浜急行線を工業地帯とし、蒲田と目黒と五反田を発着とする学園や住宅街と工場を中心とする地区である。

したがって、大小零細まで組織・未組織を含む工場労働者街と学園・住宅を主とする町とよつて構成される地区地域である。

このような地区・地域で片山さんとさん(社革新)を囲む学習会やら、太田行動委員会(社青同)の人々と前中製

作所(全金)労働争議や糞谷のいわゆる「全金銀座」での早朝の(午前7時から7時50分頃まで)チラシ配布などなど。更に、週1回は必ず細胞

会議やら「資本論」研究会など。このような学習会や会議にさらぎ徳二がたまに出席することもあった。

南部地区内の大学内で活動拠点をもたない学生、たとえば武蔵工業大学のような学生、こうした学生も居住地、その地区ということで数多くの学生も参加していた。また、私が夜間出身ということ

で各大学のII部出身の友人・知人との交流も深めていた。以上ですでおわかりと思うが、1966年9月ブント再建大会たる第6回大会前に、多くの潮流・他党派・セクトと同席する機会を数多く設けて活動していた。

このような活動は、1995年「農民連合・東京」結成のおり、副代表をおねがいの樋口篤三に「オマエも片山先生の勉強会にきていたのか」とおどろかされた。これは、一つのエピソードである。

1965年の2月から1966年の6月まで、いわゆる独立社学同の味岡、同じく独立社学同の古賀・斉藤、そして、明くる年、1966年には、関西ブントと連合統一したのである。こうして、「非マルクス主義戦線派」は、よう連合統一を成し、9月のいわゆる「ブントの大連合」「マルクス主義戦線派」との大連合は成就したのである。

つまり、第二ブント結成とは第一次ブント以上にその結成時は雑多であったと言うこと。元元違う者同志が承知の上で「連合・統一」したのである。

大谷美芳・元赤軍派 マル戦に敗けて悔しい。だいたい、そもそも、大谷君、

君は、「敗ける」という内容をもっていたのか。「勝つ」とか「敗ける」とかは、内容あつてのことである。その当初から無内容では「勝つ」とか「敗ける」の以前の話しである。

そのような意味で私は、1966年9月には、すでに共産主義者として共産主義運動を展開していた、と言ったのである。それ故、「構改」「構改」と〇〇にしていた関西派との「連合・統一」にも同意したのである。

主義者とは何か、運動とは何か、について私は私の考えをすでに行動に示してきているからである。それは1962年3年にかけての「夜学連」結成・デッチ上からそうである。

太田地区反戦も太田行動委員会が革共同中核派書記長と書かれていた野島三郎とも一緒にやっていた。へ港地区反戦の中核は吉岡であった。つまり、私にとって人々の広がり、深まる団結以外に念頭にない。これは現在も同じである。それ故に、独立派だろうが日和見の構改派だろうが岩田弘の世界資本主義論だろうが、いま、現に帝国主義権力を前にして団結を最優先すべしというのが私の考えである。

「岩田弘の世界資本主義論

に敗けて悔しい。悔しい。ブナグッテしまえ！」頭で敗けたからウシロからブナグ（闇打ち・不意撃ちの事）。このような事を決して勇ましいとは言わない。ヒキョウ者〇〇の風上にもおけない！とはこのことである。

この程度のこととも理解できない。無知で一国革命だ！一国社会主義だ、プロ独II社会主義だ！と。無知ほどおそろしいことはない！7回大会を全く反省していない。反省どころか自慢話にさえしている。私はこうした分裂主義者を断じて許さない！へと言つてもそれは紙の上である。

反省がないということとは、進歩がないと言うこと。私にとって進歩とは、連帯・団結のことだ。

大谷美芳年表との対比で
1965年6月 日韓斗争敗北
「6・15斗争」で被逮捕後
南部地区勝手に専従となる。
1966年9月 第二次ブント再建 6回大会 ※
1966年12月 再建全学連大会
1967年2月2日 明大斗争終結
1967年2月7日 花園紀男他2名によつて佐藤拉致される
1967年2月13日

塩見孝也の箱根越え
1967年8月6日 広島反戦斗争・太田地区反戦青年委として参加
1967年10月8日 第1羽田斗争 佐藤栄作ベトナム訪問阻止斗争
1967年11月 共産主義者同盟南部地区委員会『赤軍』No.1号発行 第2次羽田斗争
1968年11月12日 佐藤栄作北米訪問阻止斗争
1968年1月 南部地区委員会、『赤軍』No.2号発行
1968年1月 佐世保エンタープライズ現地斗争・首都中央斗争
1968年2月 望月彰 社会党本部・社会文化会館より拉致監禁事件
1968年2月 岩田弘 自宅襲撃
1968年3月 〇〇ブント第7回大会 大会壇上で書記長・水沢史郎に暴行、水沢史郎他 大会2日目欠席
1968年6月 アスパック
1968年8・3 国際反戦集会
1968年10・21 ブントは防衛庁斗争。他セクトは新宿駅頭斗争
1968年11月 日大斗争
1968年12月 ※

ブント第8回大会へ1968年は、3月と12月の2回同盟大会
1969年1月 東大安田講堂中心に斗争
1969年 「4・28斗争 破防法適用
1969年 1969年8月 「7・6事件」
1969年8月 ※ブント第9回大会
1971年12月 倉田豊寛を日向派「戦旗」R Gが闇撃

三里塚 1.15 東峰現地行動

- 日時：2017年1月15日（日）午後3時
- 場所：旧東峰共同出荷場跡（千葉県成田市東峰65-1）
／集会後、開拓道路に向けてデモ

●会場への行き方

- ①2017反対同盟旗開き終了後（午後2時頃）→旧東峰共同出荷場に車移動
- ②京成東成田駅地上 14時00分 迎いの車待機／12：35発 京成上野特急→13：41着 成田→13：52発 京成成田→乗り換え京成本線（普通）[芝山千代田行き]→13：57着 東成田

●主催：三里塚空港に反対する連絡会

連絡先：千葉県山武郡芝山町香山新田90-5／電話：FAX0479-78-8101